

長野県の埋蔵文化財情報誌



かがみちゃん

# 信州の遺跡

第4号

今回は平成25年度に調査された遺跡から、古墳時代の調査成果を中心に取り上げました。また、発見された考古資料を公開・活用する博物館の取り組みや史跡等指定文化財の保存活動についても紹介します。

最新調査成果から1

いでがわにし

## 出川西遺跡（松本市）

古墳時代前期～後期

### 遺跡の位置と環境

出川西遺跡はJR篠ノ井線の南松本駅周辺一帯に広がる弥生時代から平安時代にかけての遺跡です。南に続く出川南遺跡、平田北遺跡と一体になって、広大な遺跡群を形成しています。東隣を田川が北に流れており、北端は井川城の湧水地に接しています。

### 濃尾地方の影響を受けた土器

発掘調査により、古墳時代の竪穴建物跡18軒、掘立柱建物跡1軒、溝跡などが発見され、たくさんの土器と玉類が出土しました。発見された建物跡と出土した土器は、細かくみると古墳時代前期（4世紀・1700年前）と後期（6～7世紀・1500～1400年前）に分かれます。古墳時代前期にはヒョウタンのような形の壺（ひさご壺）や底に台の付く甕（台付甕）など濃尾地方（岐阜県南西部から愛知県北西部）の土器と似たものが多く、この頃の出川西遺跡は濃尾地方の強い影響を受けていたことがわかりました。調査地点の東1.2kmにある国史跡の弘法山古墳からも、濃尾地方の土器が多数出土しています。本遺跡が弘法山古墳を作った集団の集落である可能性が強まりました。

### 古墳時代の南松本

発掘調査により古墳時代の南松本一帯は大きな集落が繁栄していたことがわかってきました。この地に住んだ人々が前期には中山丘陵の北端に

弘法山古墳を、また中期には集落の周辺に平田里古墳を築き、後期になると中山古墳群を造営したと推定されます。この集落の人々は主な生活用水を奈良井川からの分流に求めていましたが、平安時代になると原因は不明ですがこの流れが涸れ始め、集落は急速に消えてしまっています。それ以来、この一帯は原野や畑になっていたようです。



（松本市教育委員会 直井 雅尚）

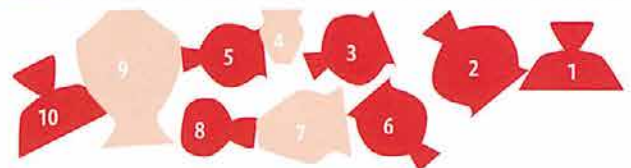


ひさご壺（下図の8番）



台付甕（下図の3番）

出土した土器 濃尾地方の土器の特徴を持っています。



出土状態の模式図 赤色は濃尾地方、薄橙色は地元の土器。

# しおざき 塩崎遺跡群(長野市)

古墳時代中期

## 古墳の周溝から馬の骨

千曲川左岸の自然堤防上にある長野市塩崎遺跡群の発掘調査で、古墳が3基検出されました。

3基とも盛土は後世の耕作などにより削られて、円弧状の周溝(墳丘をめぐる溝)だけが残されていました。そのうち最も千曲川に近い調査区東側にある古墳の周溝から、5世紀後半頃(1550



周溝内における馬の骨の出土状況



出土した馬の歯



発見された3基の古墳の周溝  
(点線は推定範囲 写真は下が北)

年前)の土器とともに馬の骨が発見されました。この周溝は、幅約2m、深さ約40~60cmあり、周溝外側の大きさから直径約18mの円墳と推定されます。



## 古墳からなぜ馬の骨が出土するのか

馬の骨は土坑に埋葬されていたのではなく、周溝の底面の近くから下顎骨や四肢骨が骨格の位置とは関係なくバラバラにみつけられました。この馬は下顎骨に残る歯からみて、<sup>かがこつ ししこつ</sup> 摩耗が少ないこと、<sup>めすうま</sup> 犬歯がないことから、若い雌馬とされます。壺や高杯などの土器は、墳丘に供えられたものが転落したような状況で出土し、馬の骨とともにみつかっています。出土状況からみると、馬の骨は、<sup>そうそう ざいれい</sup> 葬送儀礼などで土器とともに墳丘上にあつたものが転落したか、周溝にあつたところに土器が転落してきたものと考えられそうです。古墳からなぜ馬の骨が出土するかについては、他の遺跡での出土例や文献資料の検討から推測して古墳に埋葬される人のために馬が殉葬された可能性を指摘する研究者もいます。

## 古墳時代の善光寺平と馬

長野県では、南信の飯田市周辺において、5世紀後半頃の馬の骨が古墳の周溝や周辺から出土する事例がいくつかあり、この地域には馬の飼育を行う有力者がいたとが推定されています。一方、北信では5世紀代の馬骨や木製馬具が断片的に発見されていて、この時期に馬のいたことが予想されていましたが、今回の古墳からの出土事例により善光寺平を中心としたこの地域にも馬が確実に存在し、その飼育を行う有力者さえも存在した可能性が高くなってきました。

(長野県埋蔵文化財センター  
内堀 団)

# 永明寺山古墳 (茅野市)

古墳時代後期

## 新発見の古墳！

永明寺山古墳は茅野市役所から北へおよそ1kmの永明寺山中腹の南側斜面にあります。一帯は永明寺山古墳群と呼ばれる古墳群を形成し、この永明寺山古墳もそこに含まれます。

この古墳は市の墓地造成に伴い古墳群内で新たに発見されました。調査の結果、古墳時代後期(7世紀代・1400年前)の円墳であることがわかりました。直径約11mの外護列石(墳丘の土留め石)がきれいな円形に廻っています。石室は、一部天井石の欠落がありましたが、ほぼ完全な状態でした。構造は横穴式石室で、幅約2.2m、奥行約5m、最も高い場所で2mを測ります。この古墳は羨道(石室へ入る道)がやや東に曲がっているという特徴を持ち、その方向には天気の良い日に富士山を望むことができます。古墳時代の人々も富士山を意識していたのでしょうか。



古墳から望む市街地と富士山



石室の周りを外護列石がまわる (直径約11m)

## 直刀6点が無傷で出土

石室の中から、直刀、刀子、鉄鏃、馬具、玉類、青銅製の金環、須恵器、土師器等、

数多くの遺物が出土しました。特筆すべきは直刀6点で、すべてが整然と並べられたかのように置かれ、中にはフラスコ形の瓶の上に置かれたものもありました。また石室内を埋める土の上層からは、平安時代の杯も発見されました。これらの理由から、本古墳では、時間が空きながらも追葬が行われていたことと、未盗掘あるいはそれに近い可能性が考えられます。

直刀をX線撮影にかけた結果、2点の刀の鏑(刀身と柄の境にある金具)から象嵌(地の素材に異質の素材を埋め込んだ装飾)がみつかりました。永明寺山古墳出土の遺物は、市内の古墳としては珍しく遺存状態が良好で副葬品の内容も豊富なことから貴重な発見となりました。

(茅野市教育委員会 塩澤 恭輔)



石室奥からは直刀の他、多くの遺物が出土



象嵌が発見された箇所

出土した直刀 (最長で97cmを測る)

# ほたか 穂高古墳群（安曇野市）

古墳時代後期

## 古墳時代後期の群集墳

安曇野市の西山山麓には南北約8kmにわたって約80基の古墳が点在していて、穂高古墳群と総称されています。それらは6世紀（1500年前）以降の群集墳と考えられていますが、いままで古墳を構成する要素（墳丘・石室・遺物）を総合的に調査した例はほとんどありませんでした。

國學院大學考古学研究室では、毎年夏の10日間を発掘実習にあててきましたが、2009年度からは古墳群の南側、国営アルプスあづみの公園内に位置する9号墳に的をしぼり、古墳の総合的な調査を継続しています。



石室の調査風景



古墳の入り口部付近から出土した須恵器

## 多くの副葬品が出土

9号墳の調査は1年目に現状の測量を行い、2年目以降は、石室の発掘を始めました。

この古墳の上には社があり、近世以降に古墳の石室が埋め立てられたことがわかりました。埋土の中には割石のほか、本来石室の一部だった大きな石も含まれます。昨年までの調査でこうした礫を除去し、今年は床面に向けて掘り進めました。結果、メノウ製の勾玉、碧玉製の管玉、水晶製の切子玉、鉄鏃、刀子、馬具などがみつかりました。このほかに、特に入り口部付近では須恵器の蓋と杯のセットが3組、大きな長頸瓶などが重なった状態でみつかりました。いずれも8世紀のもので、これらの土器が追葬によるものか、古墳築造から時間を経て供えられたものかは、今後の調査で明らかにしたいと考えています。

発掘調査中は、この公園を訪れた親子連れの皆さんに見学いただきました。研究室一同、今後も安曇野の歴史資産として活用できるよう充分な調査研究を行っていききたいと思います。

（國學院大學教授 吉田 恵二）



石室から出土した玉類

## 埋文ニュース1 遺跡の活用について

長野県埋蔵文化財センターでは、発掘調査を行って記録保存した遺跡について、遺跡の存在を忘れないため、またその遺跡の歴史的意義をいつでもだれもが学習することができ、地域史を考えることができるよう発掘調査地近くに遺跡解説板を設置する事業を始めました。解説板にはQRコードを設け、埋文センターホームページにアクセスすることで、遺跡情報をさらに深く探求できるよう工夫してあります。ぜひ現地を散策いただき、遺跡を身近な文化財として親しんでください。



国道18号坂城更埴バイパス関連遺跡の解説板設置  
紹介遺跡：社宮司遺跡、東條遺跡  
所在地：千曲市八幡(武水別神社の西方、斎の森神社近く)

## 埋文ニュース2 長野県埋蔵文化財センター速報展「長野県の遺跡発掘2014」を開催します

長野県下において平成25年度に調査・整理した遺跡の資料を公開します。

今年度は、「長野県の近世城郭・城下町発掘最前線」の小テーマも併せて企画し開催します。

会場・会期

### □ 長野県立歴史館

平成26年3月21日(金)～6月1日(日)

9:00～17:00(ただし休館日を除く)

### □ 長野県伊那文化会館

平成26年7月19日(土)～8月24日(日)

9:00～17:00(ただし休館日を除く)

主催 長野県埋蔵文化財センター・長野県立歴史館・長野県伊那文化会館

共催 長野県教育委員会・伊那市・伊那市教育委員会



浅川扇状地遺跡群で発見された弥生時代後期末の壺

## 埋文キーワード

### 発掘現場の測量

遺跡を発掘すると、住居跡や墓など過去の人の生活痕跡がたくさん見つかりますが、調査が終わると、道路などができて破壊されてしまいます。そのため、発見された生活痕跡を図面や写真に残す記録保存が重要な作業となります。実測図には、発見された生活痕跡の大きさや形、遺跡内における位置などを、1/20等の正確な縮尺で記録します。一つの遺跡を調査すると実測図が数百枚にな

長野県埋蔵文化財センターの主な仕事を毎号紹介します。今回は遺跡の記録のために大切な発掘現場の測量についてとり上げました。

ることもめずらしくありません。こうして作成された測量図を基に調査地点におけるムラの様子が図上で精密に復元され、その成果は報告書として公開されます。これにより他の遺跡で発見された住居跡や墓の構造、遺物の出土状況との比較や、さらには関東・近畿など他地域の生活様式との比較が行えるようになり、調査した地域の特質を知る資料として活用できるようになります。



暑い日も寒い日も  
黙々と遺跡を測り  
続けるスタッフ

最近ではトランシット(三脚の上に固定して距離や角度を測量する機械)とパソコンを連動させた電子測量も盛んに行われるようになりました



あかしなはいじ  
明科廃寺のなぞに迫る

安曇野市豊科郷土博物館では、安曇野の自然・歴史民俗にふれる博物館をテーマに活動をしています。昨年は郷土の歴史を知るため、長野県最古の寺院とされる明科廃寺について、連続講座を実施しました。この中で岐阜県飛騨市の飛騨寿楽寺廃寺と明科廃寺との出土瓦等の比較研究を行ったところ、両寺は同范瓦から推測すると密接な関係があり、明科廃寺が先に建立されたことが明らかになりました。県下最古に属する7世紀(白鳳期)の建立時期であることから、寺の性格や建立の背

あすみのしとよしなきょうど  
安曇野市豊科郷土博物館 Tel.0263-72-5672

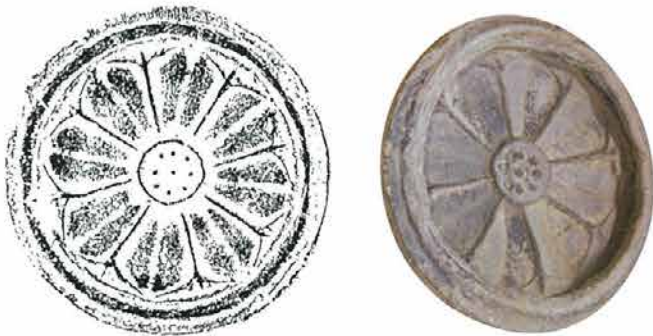
景などが改めて注目されます。また明科廃寺がなぜ安曇野に建立されたかを考えることを目的に、6世紀後半から7世紀の信濃国を理解するための飯田市高岡1号墳と出土遺物を実見し、郷土の歴史に直接触れる楽しさを満喫しました。

今後は、さらに明科廃寺のなぞに挑むとともに、廃寺の調査研究から文化財の保護と活用を考えるため、より多くの市民のみなさんと手を結ぶ活動を考えていきたいと思ひます。

(豊科郷土博物館 百瀬 新治)

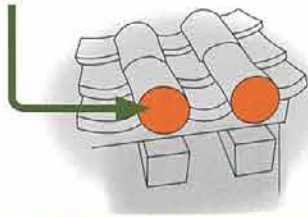
住 所:安曇野市豊科4289-8

休館日:月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日



のきまるがわら たくまい  
明科廃寺の軒丸瓦 (拓影)

飛騨寿楽寺廃寺の軒丸瓦 (※)



※写真は、  
安曇野市豊科郷土  
博物館より提供



飛騨の寿楽寺で瓦の説明を聞く

浅間山麓の縄文時代をクローズアップ

あさまじょうもん  
浅間縄文ミュージアム Tel.0267-32-8922

浅間山麓では、平成2年の川原田遺跡の発掘調査を皮切りにたくさんの縄文遺跡が発掘され、これまで知られてこなかった八ヶ岳山麓とは異なる縄文文化の存在がクローズアップされてきました。出土した成果の一部を展示公開・活用するため、平成15年に浅間縄文ミュージアムがオープンしました。

浅間縄文ミュージアムでは、国重要文化財である“焼町土器”をはじめとした縄文文化のテーマ展示を行い、いつでも参加できる体験学習を実施、開館10年目にあたる今年度も、年間3万人以上の来館者でにぎわっています。

(浅間縄文ミュージアム 堤 隆)

住 所:北佐久郡御代田町大字馬瀬口1901-1

休館日:月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日 8月は無休



ごんがかんが

## 恒川官衙遺跡の史跡指定、松本城の史跡追加指定の答申が出される！

国の文化審議会は、平成 25 年 11 月 15 日に恒川官衙遺跡（飯田市）の史跡指定、史跡松本城（松本市）の追加指定を文部科学大臣に答申しました。

恒川官衙遺跡は、7 世紀後半から 10 世紀前半にかけて営まれた伊那郡衙（郡家）と考えられる遺跡です。倉庫群をはじめとする掘立柱建物と「恒川清水」と呼ばれる祭祀遺構が発見され、また「厨」・「官」等の墨書土器、和同開珎銀銭、陶硯、緑釉陶器、木製祭祀具（斎串・人形）などの遺物が出土しています。恒川遺跡群は 1977 年以降、道路建設や宅地造成などの開発がある度ごと飯田市教委が 35 年間 70 回以上も発掘調査を積み重ねてきました。また地元有志の会も遺跡内に解説看板を設置してきました。教委と地元の方がたの地道な取り組みが実を結び、まもなく正式に、古代の官衙遺跡としては長野県内で初めての国指定史跡となります。

史跡松本城は、信州を代表する近世城郭であり、天守は国宝に指定されています。

今回は松本城南外堀西側と西外堀の一部が追加指定されます。松本城南・西外堀は、松本城二の丸の正面（大手側）である南側面から西側面を守る堀で、松本城の構造を知る上で、学術上非常に重要な箇所と考えられます。大正時代頃には宅地として埋め立てられましたが、松本市教委による範囲確認調査で堀や石垣が良好な形で残存していることが確認されました。今後松本市では地元の方がたのご協力を得ながら南・西外堀の復元整備を進めていく計画です。新しい松本城が私たちの目の前に姿を現すのが今から楽しみです。



国宝松本城

## 「体感！信州の文化財ガイドツアー」が行われました

県教育委員会文化財・生涯学習課では、県内各地域の文化的活性化や文化財保護思想の啓発を目的として、県立歴史館、県埋蔵文化財センター、県文化財保護協会と連携し長野県文化財活用活性化実行委員会を組織しました。今年度は文化庁文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）を利用し、10 月から 11 月にかけて「体感！長野県の文化財を巡るバスツアー 信州の文化財ガイドツアー」を実施しました。県内各地域の文化財を見学して、歴史的意味に触れ、その素晴らしさを体感していただく企画です。

10 月 26 日（土）に予定していた中信コースは台風のため残念ながら中止となりましたが、11 月 2 日（土）に北信コース、11 月 9 日（土）に南

信コース、11 月 16 日（土）に東信コースの 3 地区で実施しました。

史跡・遺跡では、飯山市小菅地区の新発見の信仰遺跡、伊那市の高遠城（国史跡）、雨境峠祭祀遺跡群のひとつである鳴石及び芦田城（共に立科町史跡）等を見学しました。また、これまで公開されていなかった雨境峠祭祀遺跡群から採集された祭祀遺物も所有者の方のご厚意により特別に見学することができました。

参加者からは、「普段公開されていない文化財を見ることができた。」「地元においても今まで知らなかった文化財を見学することができた。」などの声を多くいただきました。来年度も実施していきたいと考えています。

（長野県教育委員会 櫻井 秀雄）



長野市篠ノ井東福寺  
なんぐう  
**南宮遺跡**  
2013.10.28～2013.12.9 調査  
長野市埋蔵文化財センター

●古代更級郡斗女郷の中心地であったと考えられています。今回、平安時代の竪穴住居跡17軒と中世の竪穴建物跡1軒を確認しました。



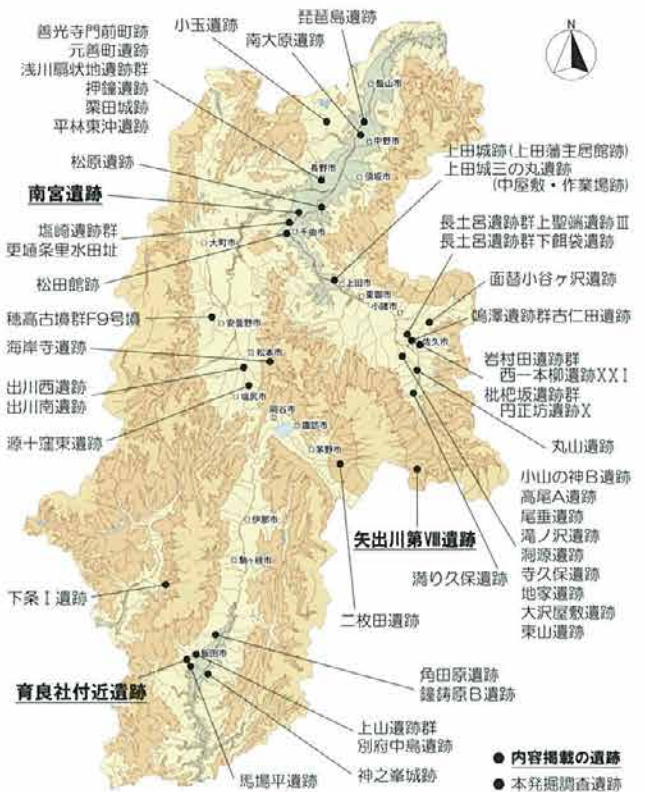
南佐久郡南牧村野辺山  
やでがわ  
**矢出川第Ⅶ遺跡**  
2013.10.1～2013.12.4 調査  
長野県埋蔵文化財センター

●野辺山高原で最も古い約3万年前の黒曜石や水晶で作られた石器群がみつかりました。



飯田市北方  
いくらしや  
**育良社付近遺跡**  
2013.11.5～2014.1.6 調査  
飯田市教育委員会

●古墳時代前期～中期の低墳丘墓を発見しました。貼石をもつ低墳丘墓としては飯田市内で8例目となります。長軸は15.6m程です。



**考古学の窓 ～幕末の玩具？土製模造貨を発見～**

みなさんは子供のころお金の玩具で遊んだことはありますか？図柄は本物と似ていますが、よくみると少しずつ違っていました。

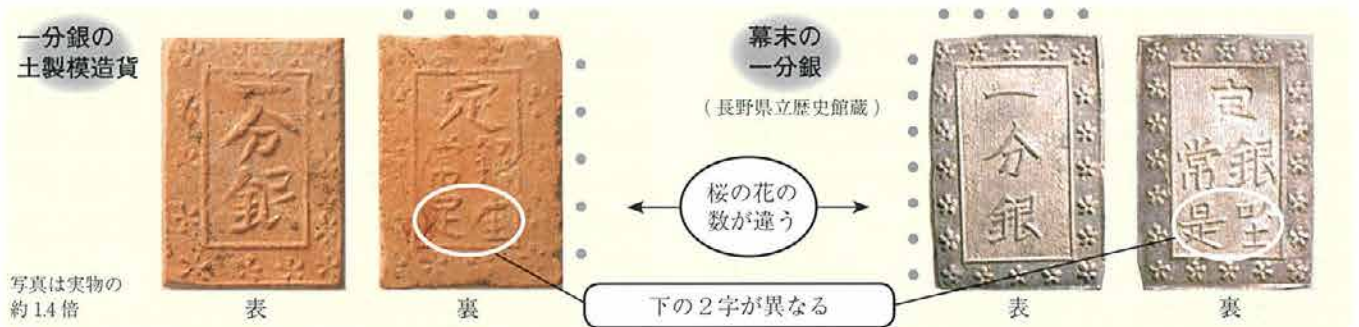
このような玩具がいつ頃からあったのかははっきりとわかりませんが、一つのヒントとなる資料が今年発掘調査した長野市の浅川扇状地遺跡群で発見されました。幕末の一分銀を模倣した土製模造貨です。

大きさは縦約2.3cm、横約1.6cmで幕末の一分銀と同じですが金属製ではなく粘土に型押しした素

焼きで色は赤茶色です。ただし図柄の花の数や字をあえて変えてあり、本物の一分銀と異なる部分を作りだしています(下図)。

土製模造貨の役割は明確に分かりません。本物の貨幣を用いる代わりに、これを賭博に用いた、あるいは玩具として用いた可能性など諸説があります。今後も出土状況(どの場所からどんな状態で出土するものなのか)を含めて追究していく必要があります。

(長野県埋蔵文化財センター 廣田 和穂)



長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課  
〒380-8570 長野市南長野字幅下692-2  
TEL 026-235-7441 FAX 026-235-7493  
メール bunsho@pref.nagano.lg.jp

(一財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター  
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4  
TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157  
HP <http://naganomaibun.or.jp/>  
印刷：信毎書籍印刷株式会社